

# 宮田直彦のエリオット波動レポート

## マーケット見通し(短期アップデート) 3月3日 10:34AM 更新

### [日経平均]

【当面の想定レンジ】 46,000～58,500 円

### [NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 47,000～50,500 ドル  
(S&P500) 6500～7000

### [ナスダック]

【当面の想定レンジ】 (ナスダック 100) 22,500～26,000  
(ナスダック総合) 20,500～24,000

### [米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 140.000～160.000 円

### [ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～102.000

エリオット波動とは

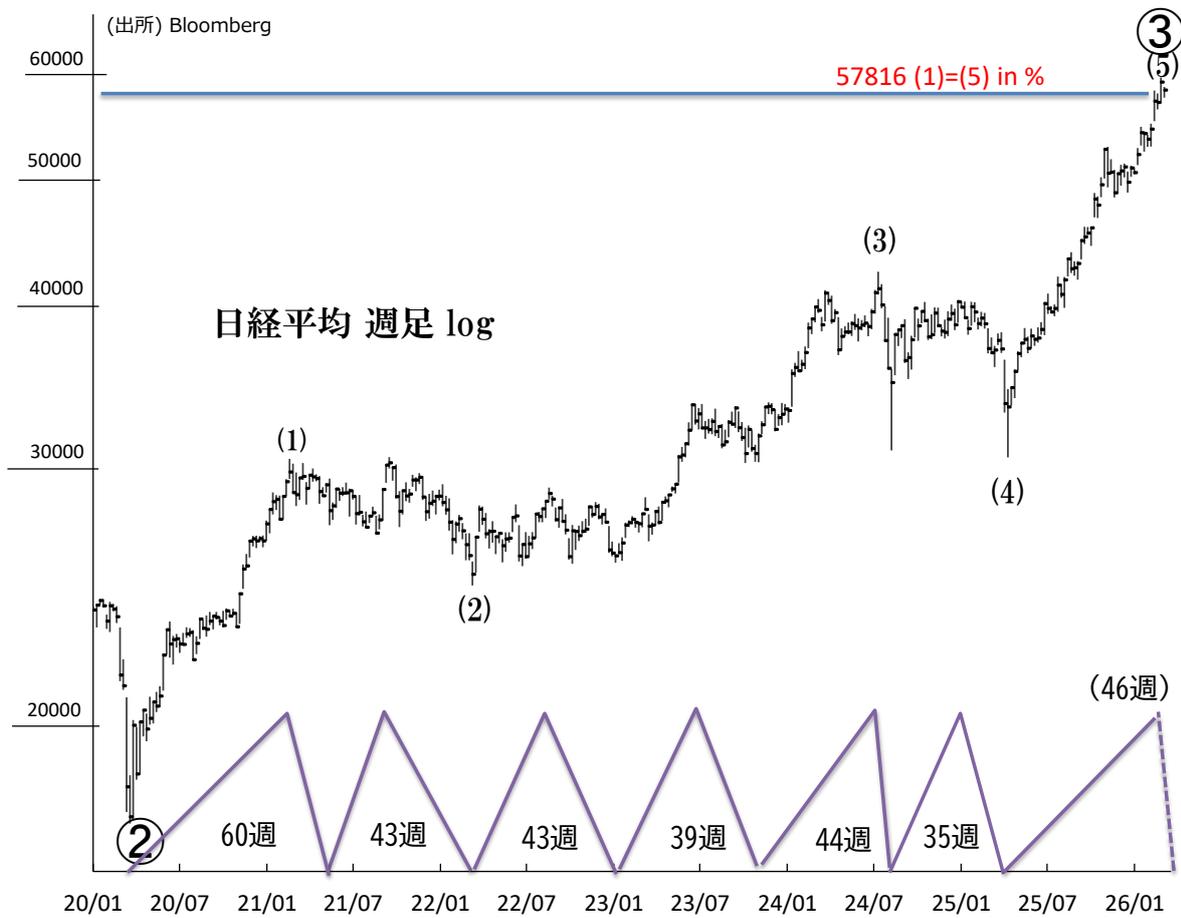
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均・TOPIX



【週足 エリオット波動分析】

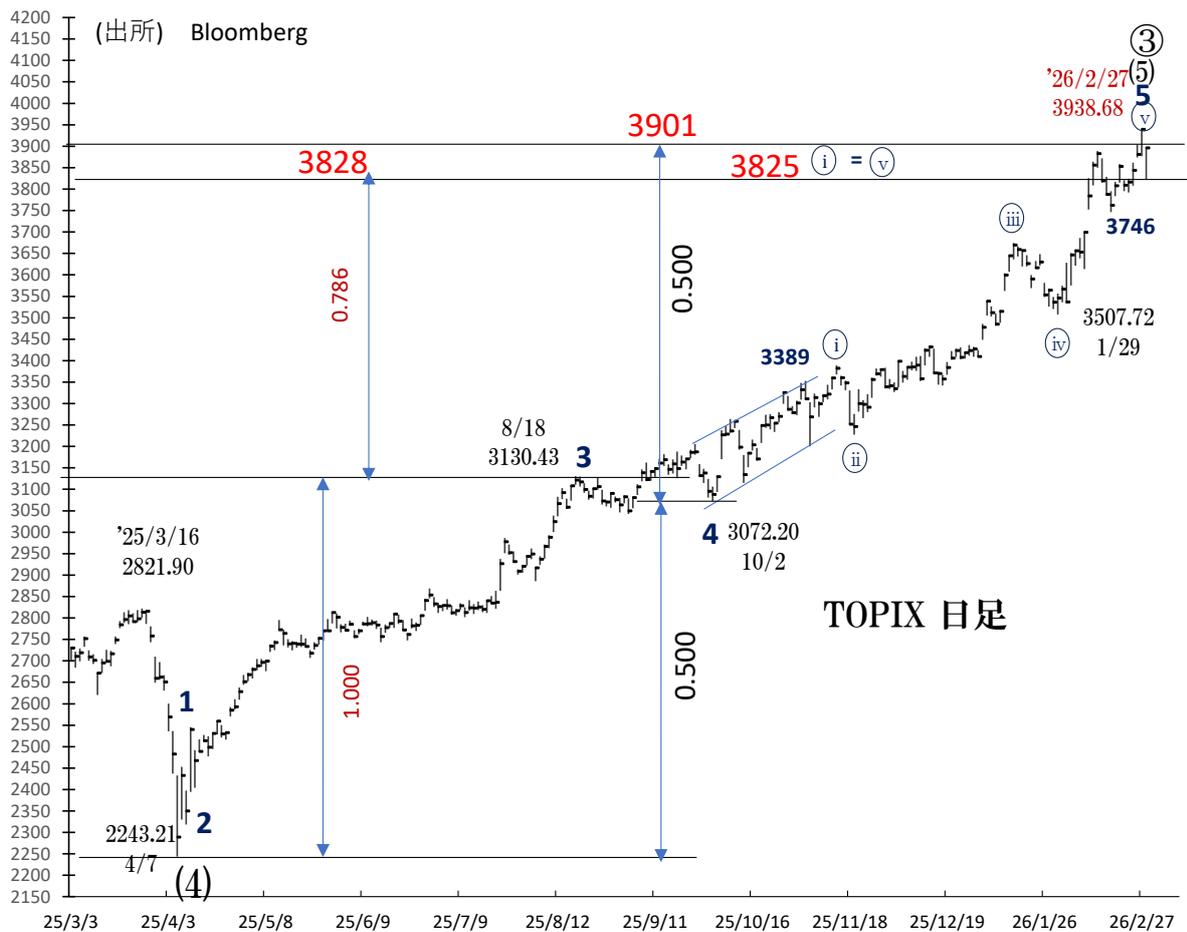
2020年3月安値・16,358円を起点とする、プライマリー第③波の強気相場は終了したと思われます。今後はコロナショック以来最大のリスクオフ局面・プライマリー第④波に備えるべきでしょう。

59,332円を付けた2月26日(2月第4週)は、25年4月底から46週目です。週次の安値サイクル(安値～安値)は42週±7週(35週～49週)であり、46週という上昇期間は異例の長さでした。

翻って今後の3週間程度は、サイクル安値に向けて急落する時間帯と想定できます(サイクル安値までの期間は3週間を超えるかもしれません)。

コロナショック底(20年3月)からトランプ関税ショック底(25年4月)までの5年間(264週)に、6つの週次安値サイクルが認められ、サイクル高値からサイクル安値への下落率は10%-26%(平均17%)でした。

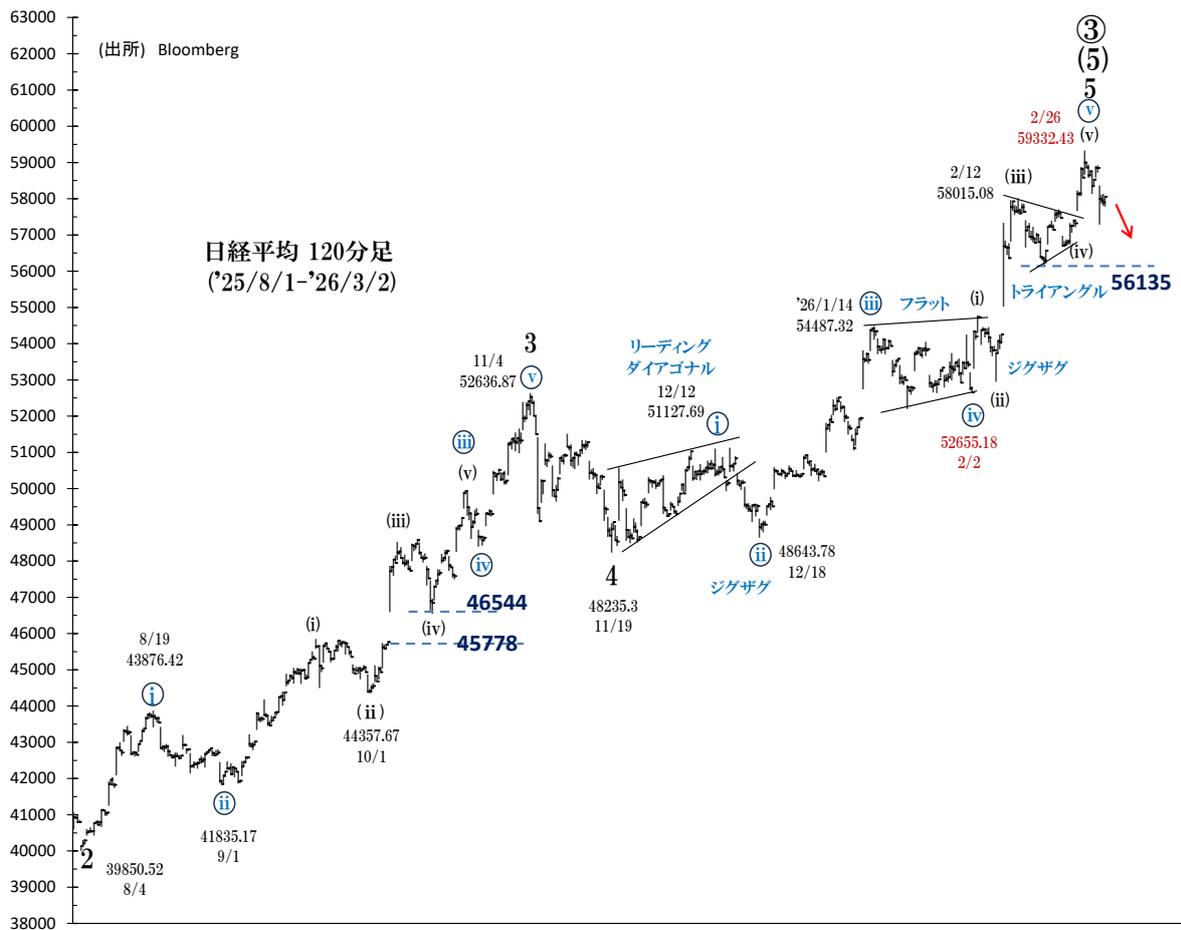
したがって現行週次サイクルの高値から安値までに、控えめにみて10%、平均的には15%程度下げてください。59,332円(2/26高値)を調整の始点と定めれば、3月～4月にかけて日経平均は[53,400円(10%安)-50,430円(15%安)]へ下げてください。



[TOPIX]

昨年4月安値2243を起点とする、インターミディエイト級第(5)波の全行程は、3938(2/27 高値)で完了した可能性があります。

3746(2/17 安値)割れが、トレンド転換最初のシグナルです。続いて2月6日～9日に空いたマド埋め(3699)を果たすと、早々に3507を目指す可能性が高まります。



**[日経平均]**

昨年 11 月安値(48,235 円)からの、[マイナー級第 5 波]上昇は、59,332 円(2/26)で終了した可能性があります。

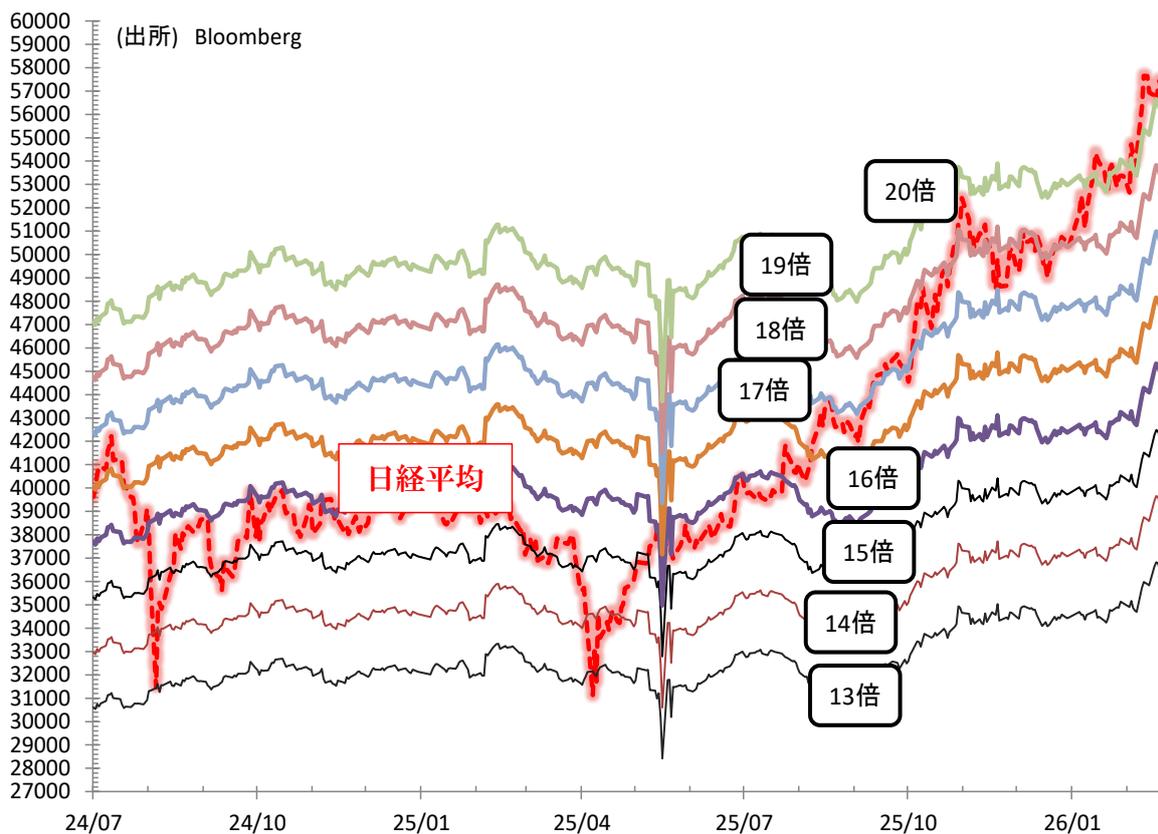
3 月 2 日、日中の下げ幅は一時 1500 円を超えました(安値は 57,285 円)。その後はやや下げ渋る動きとなりましたが、終値時点の日経平均総合かい離は 40.64%と大きく、上がり過ぎの状態は解消されていません。

日経平均は、[56,781 円](2/2~2/26 の上昇に対する 38.2%戻し水準)を試し、さらに 56,135 円(2/17 安値)を目先で試す展開となっておかしくないでしょう。

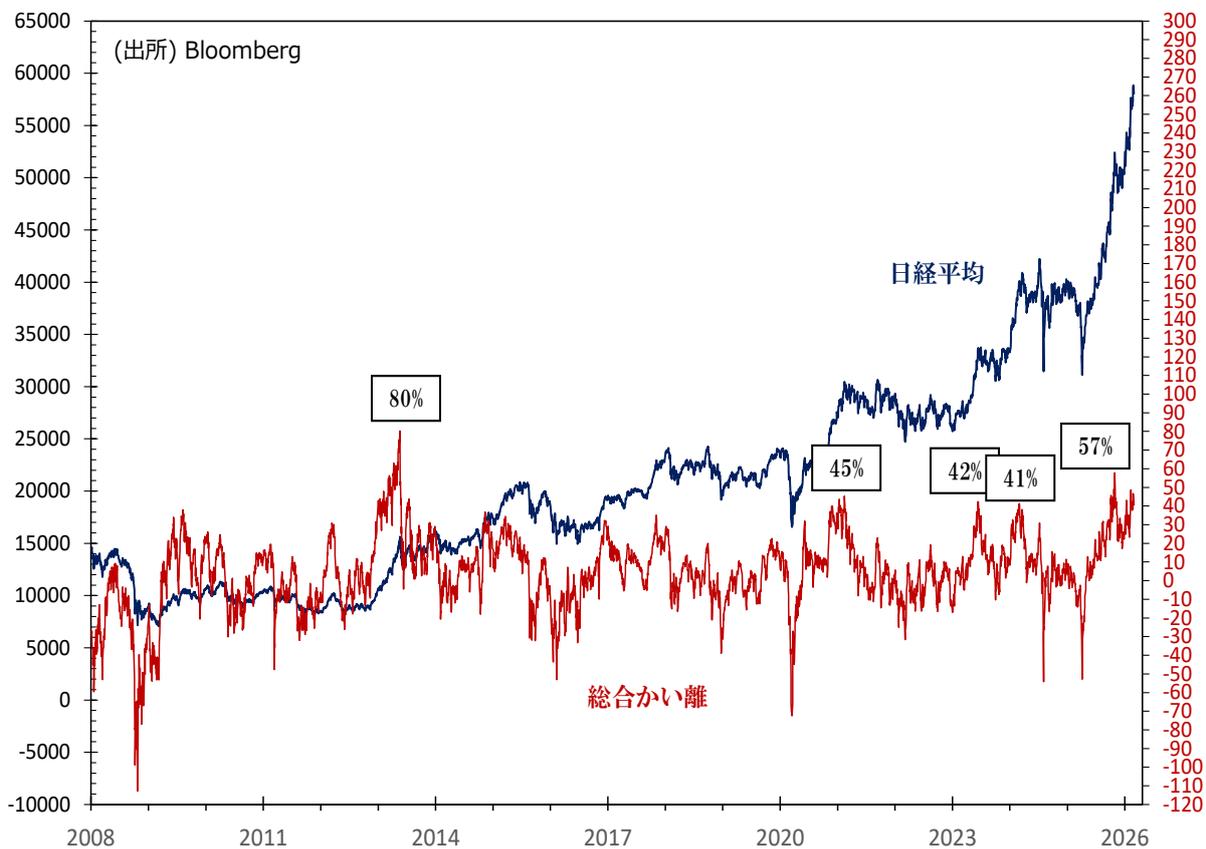
そして 2 月 6 日-9 日のマド[54,253 円-55,018 円]を埋めると、プライマリー第④波に入った可能性が高まります。

**[予想 PER 別の日経平均水準]**

3 月 2 日の日経平均予想 PER は 20.71 倍、予想 EPS は 2803 円。過去最高の EPS は 2867 円(2/25)です。



[日経平均総合かい離] 40.64%(3月2日)



NYダウ・S&P500

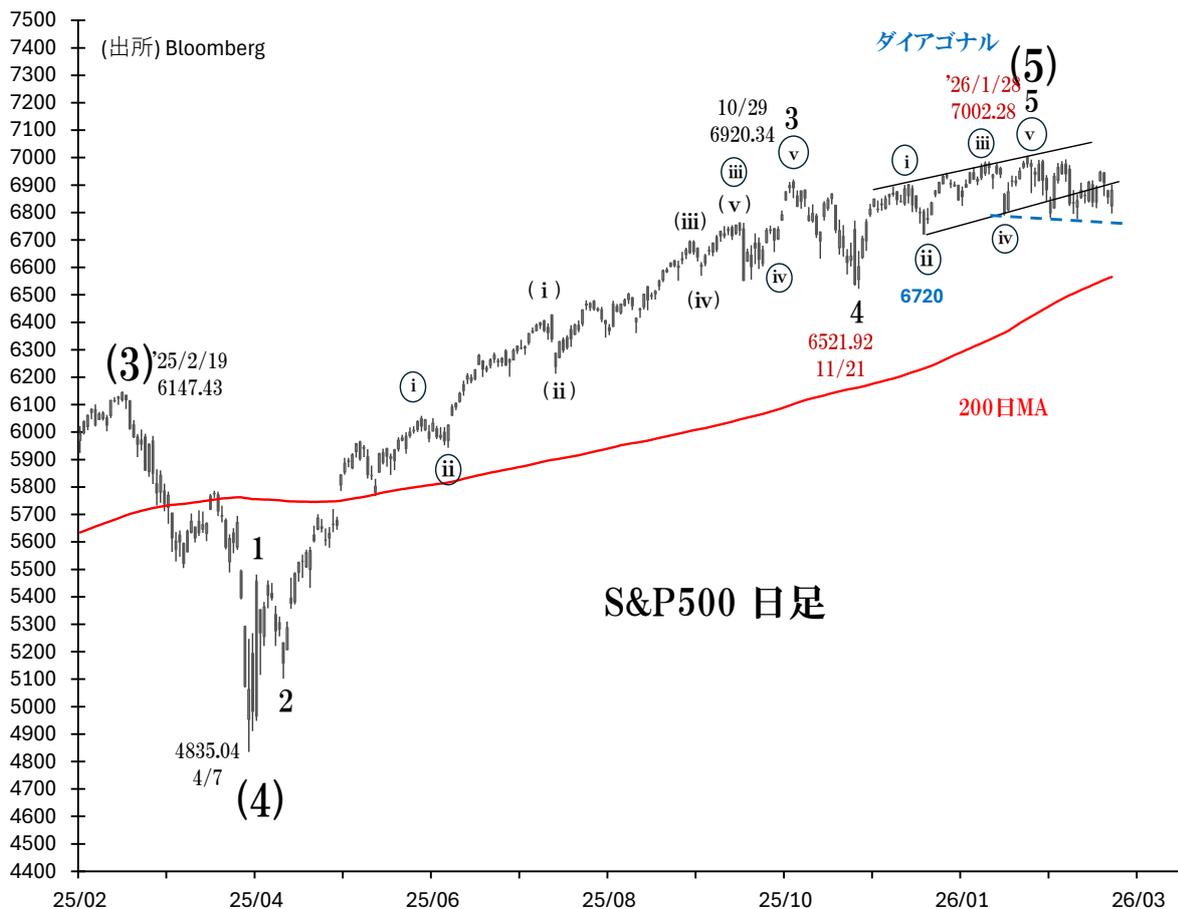


【NYダウ 日足エリオット波動分析】

2月10日に付けた最高値・50,512ドルは、S&P500(高値は1月28日)、ナスダック(25年10月29日が高値)など主要指数によって確認されていません。この「未確認」は、米国株相場の天井到来を暗示するものです。

3月2日は一時48,377ドルまで下げ、48,428ドル(1/20安値)を下回る場面がありました。既に高値からの通算下げ幅(2134ドル)は過去3カ月間でもっとも大きくなり、さらに25年4月からのサポートラインを明確に下回りました。上昇トレンドは変調しています。

2月高値からの下げは今のところ、(i)-(ii)とカウントされます。仮に49,815ドル(2/26高値)からの下げが第(iii)波なら(この見方は48,377ドル割れで強化されます)、今後は急落となるでしょう。第(iii)波のターゲット・レンジは[47,500ドル-47,200ドル]です。



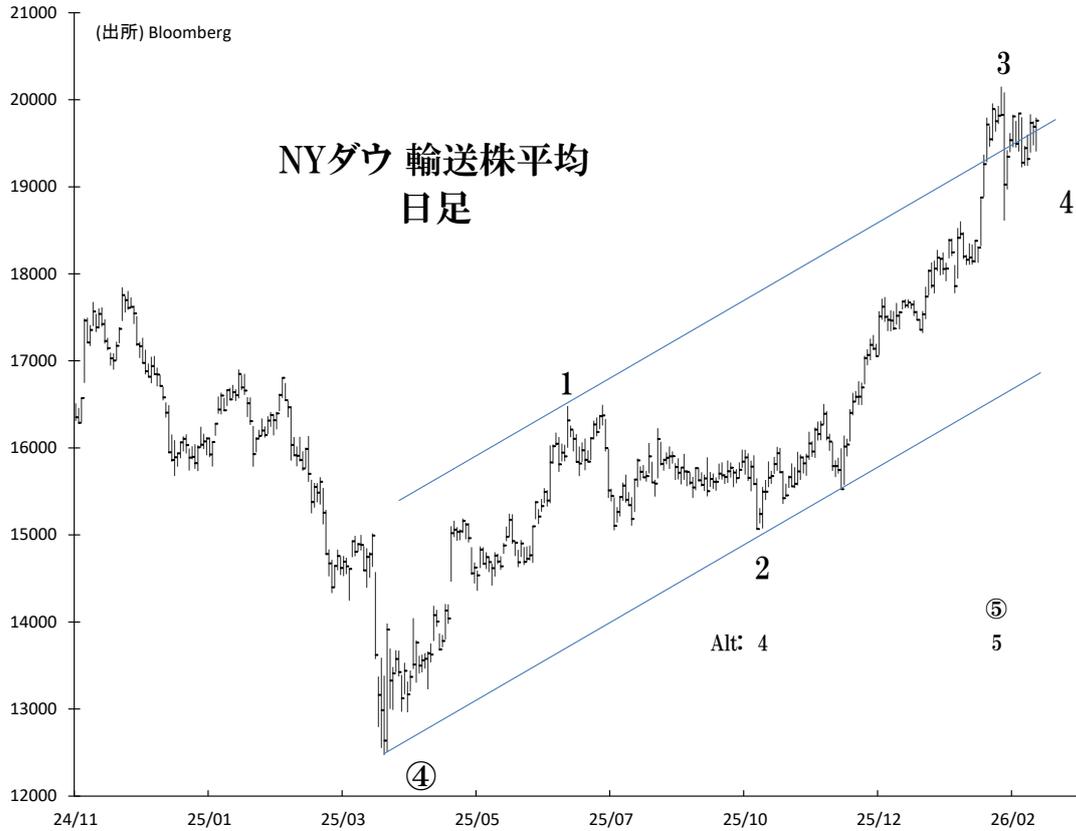
**【S&P500 日足 エリオット波動分析】**

6521 (11/21 安値)からの「エンディング・ダイアゴナル」は、7002(1/28 高値)を以て完成した可能性が高い、とみています。もしそうなら、S&P500 は今後 1~2 カ月を時間的メドに、ダイアゴナル始点(6521)へ下落する展開となるでしょう。

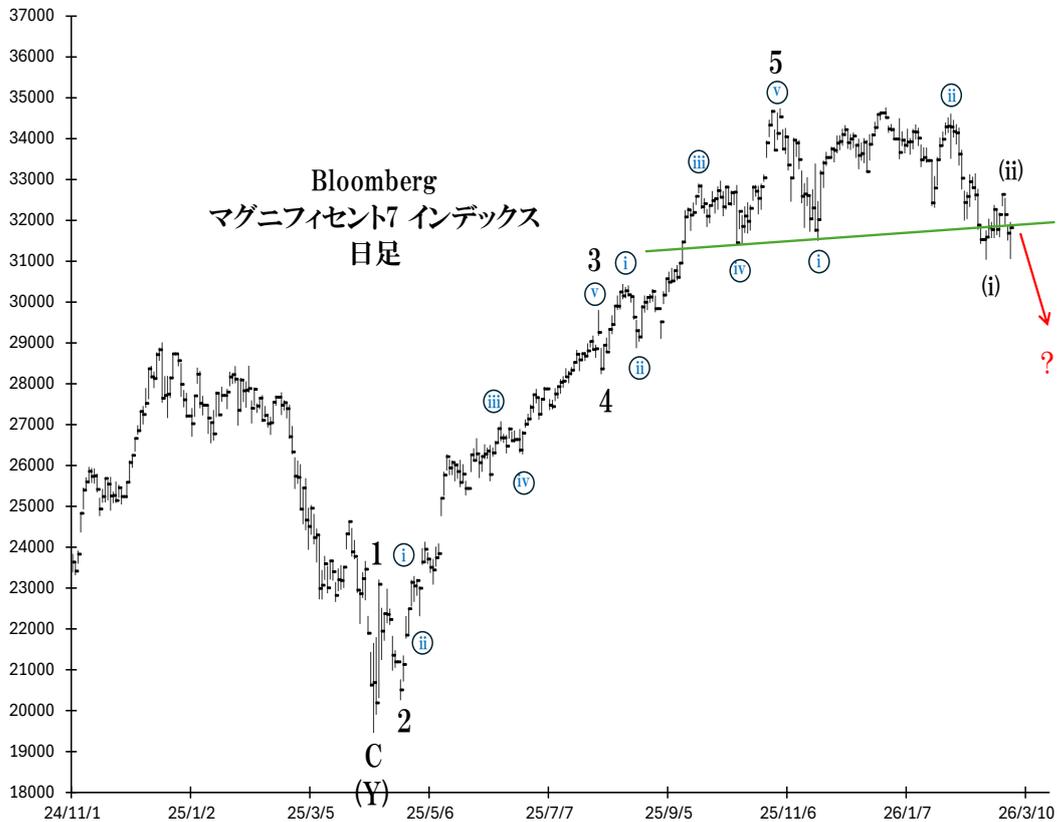
マグニフィセント・セブン(M7)は半年間のネックラインを下回り始め(下チャート参照)、足元は「サード・オブ・サード」急落前夜にあるようです。M7 は S&P500 時価総額の 30%超のウェイトを占めており、M7 の調整が本格化すると、S&P500 も大きく影響を受けることになります。

3 月 2 日安値・6796 を割れると、S&P500 への売り圧力が強まりそうです。

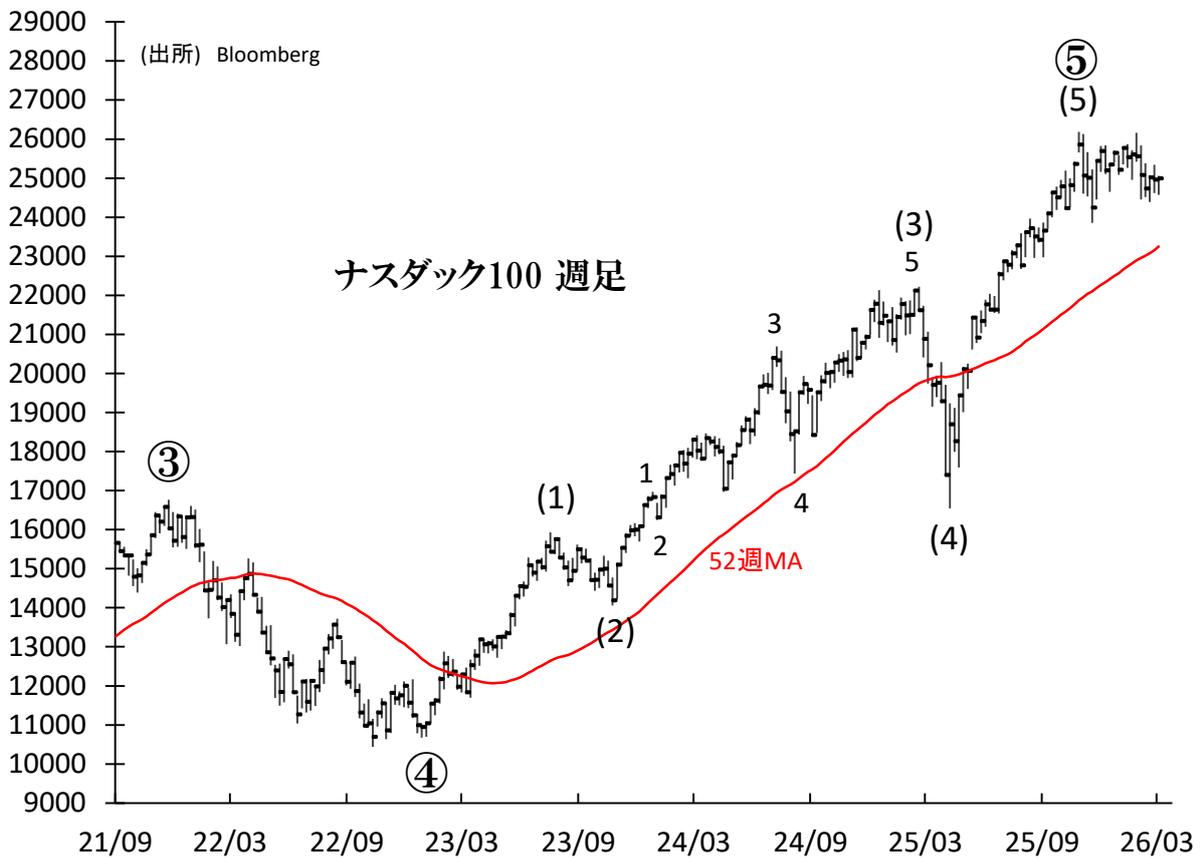
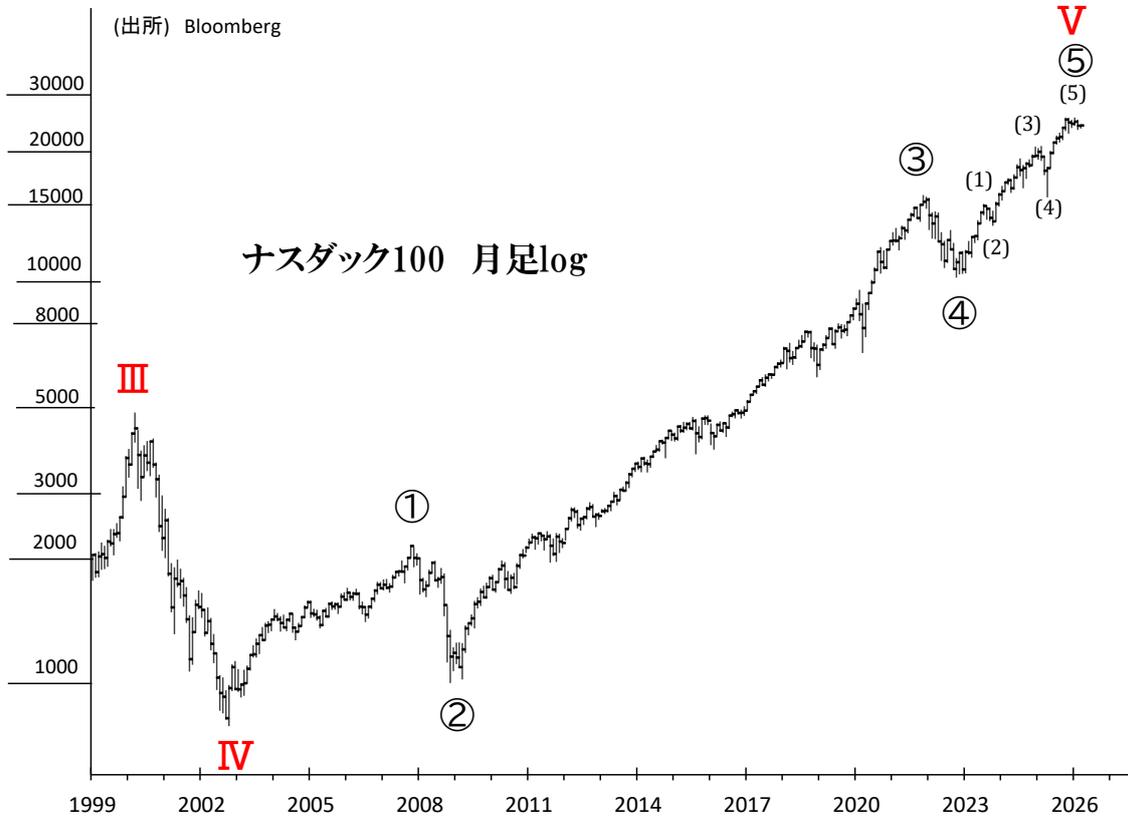
**[ダウ輸送株平均] 第4波「保ち合い相場」が展開中か**



**[マグニフィセント7] 「サード・オブ・サード」下落入りか?**



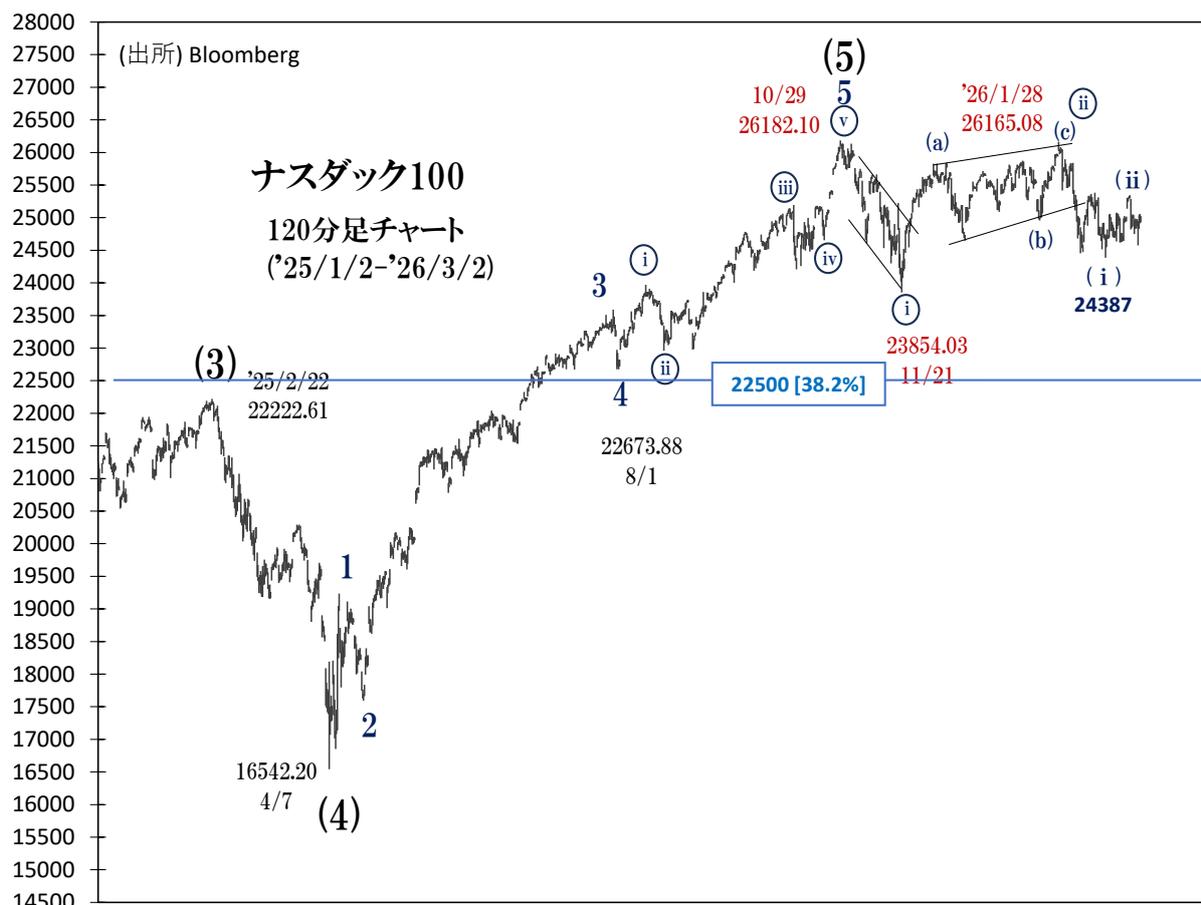
ナスダック 100



【ナスダック 100 月足・週足 エリオット波動分析】

2002 年 10 月底から進行してきたサイクル級の上昇トレンドは、その全行程を終えた可能性があります。2022 年 10 月からのプライマリー級の第⑤波による上昇は、25 年 4 月よりインターミディエイト級第(5)波にあり、それは 26,182(10/29 高値)を以て終わった可能性が高まっています。

米株相場は 2026 年前半に、本格リスクオフ局面を迎えるでしょう。



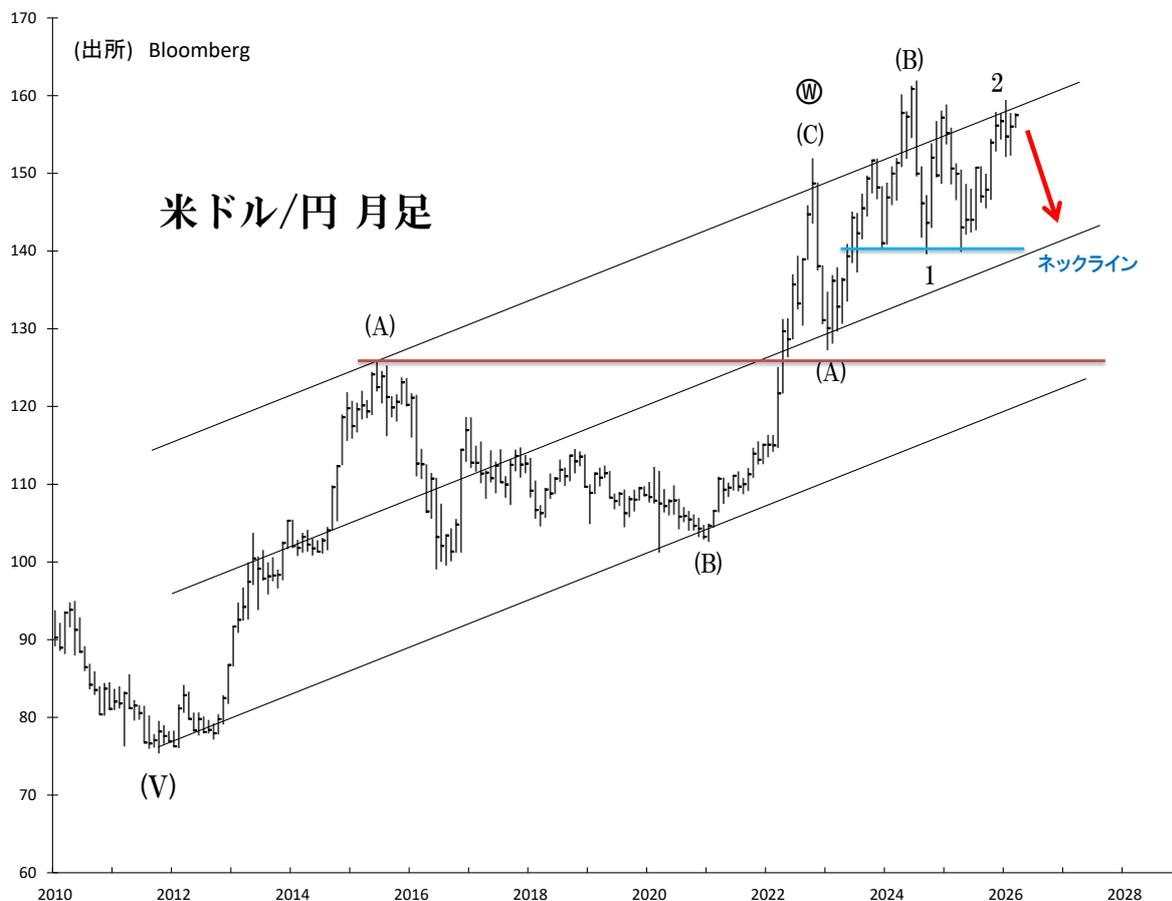
【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

昨年 10 月高値(26,182)と今年 1 月高値(26,165)、これらは 3 カ月越しのダブル・トップです。波動カウント的に、1 月高値(26,165)からマル iii 波による急落局面が進行中と思われます。

24,387(2/17 安値)からの、マル iii 波中第(ii)波リバウンドは 25,343(2/26 高値)で終わったかもしれませんが。この見方は、24,575(3/2 安値)を下回ることにより確認され、マル iii 波中第(iii)波「サード・オブ・サード」による本格リスクオフ局面を迎えるでしょう。

それは昨年 11 月安値 23,854 も早々に下回り、今後数週間タームで[22,500](昨年 4 月からの上昇の 38.2%押し水準)に達してもおかしくありません。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

16年半サイクルによれば、米ドル/円(ドル/円)は2028年4月頃まで「円高の時間帯」が続きます。この時間帯においてドル/円の上値は抑えられるでしょう。筆者は28年4月頃までのどこかの時点で、1ドル=125円~120円へのドル安・円高になる可能性をみています。

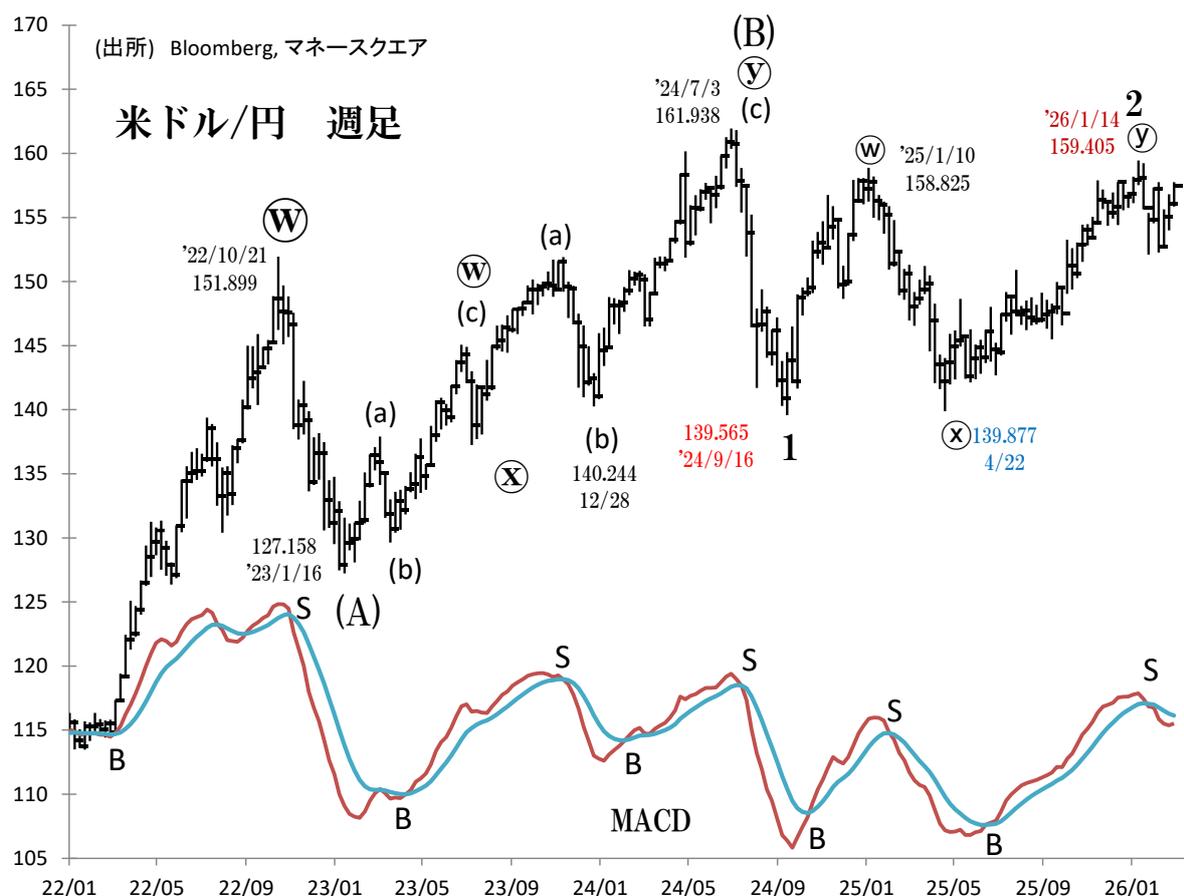
日米実質金利差から導かれるドル/円の水準は、現在1ドル=137円-139円です。足元の日本円は金利差からみた妥当な水準よりも極端な過小評価が続いています。

さらには、日本が「金利ある世界」に入った一方で、実質実効円レートは今なお史上最安値圏にあります。

このような「超円安」を筆者は「円安バブル」とみており、それは今後いつ弾けてもおかしくありません。実際のところ、円安バブル崩壊は足元から始まるかもしれません。

ちなみに「失われた20年≒金利なき世界」では、円売りで調達した資金を様々なアセットに投資する円キャリー取引(※)が世界の潮流でした。しかし「金利ある世界」では、円キャリー取引の巻き戻し(円買い戻し)が進むと共に、市場ボラティリティが急上昇するリスクに留意すべきでしょう。

(※)BIS(国際決済銀行)によると世界の円キャリー取引規模は40兆円程度とされます。

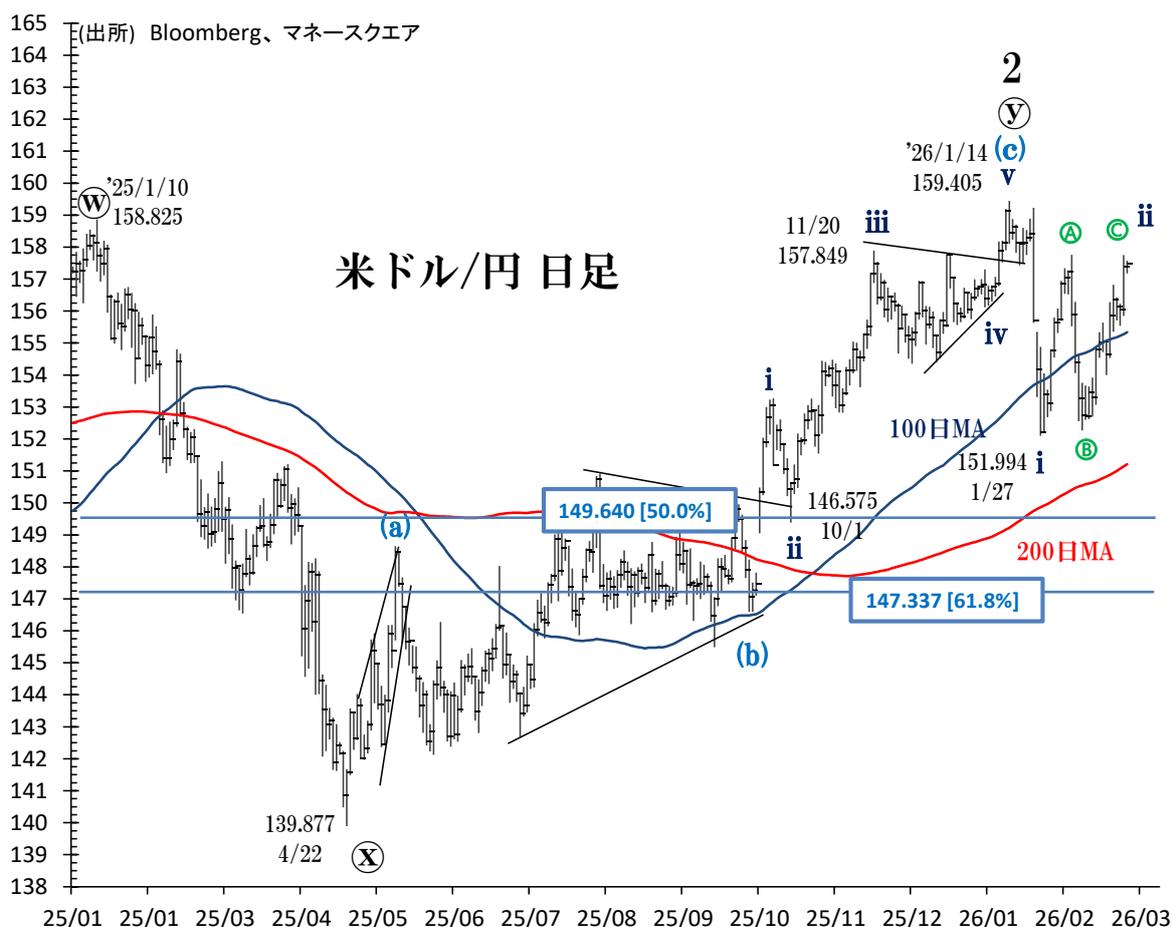


【週足 エリオット波動分析】

24年9月安値(139.565円)からの第2波によるリバウンドは終わり、第3波によるドル安・円高がスタートした可能性が高い、とみられます。

週次MACDは25年6月下旬に買い(B)となり、そのままドル/円の買い持ちが続いてきましたが、1月最終週に売りシグナル(S)が点灯し、半年ぶりの弱気転換となっています。

市場価格は第3波で強く・大きく動きます。足元のドル安・円高が第3波なら、じり安の展開は考えにくい上に、次が「サード・オブ・サード」のドル安トレンドということを考慮すると、今後2~3カ月という短期間に140円処へ急落する展開もあり得ます。



【日足 エリオット波動分析】

159.405 円(1/14)を起点に、持続的なドル/円下落トレンドが進行中とみています。

151.994 円(1/27)からの第 ii 波のリバウンドは「A-B-Cジグザグ」編成とみられ、それは短期的にも完成するでしょう。

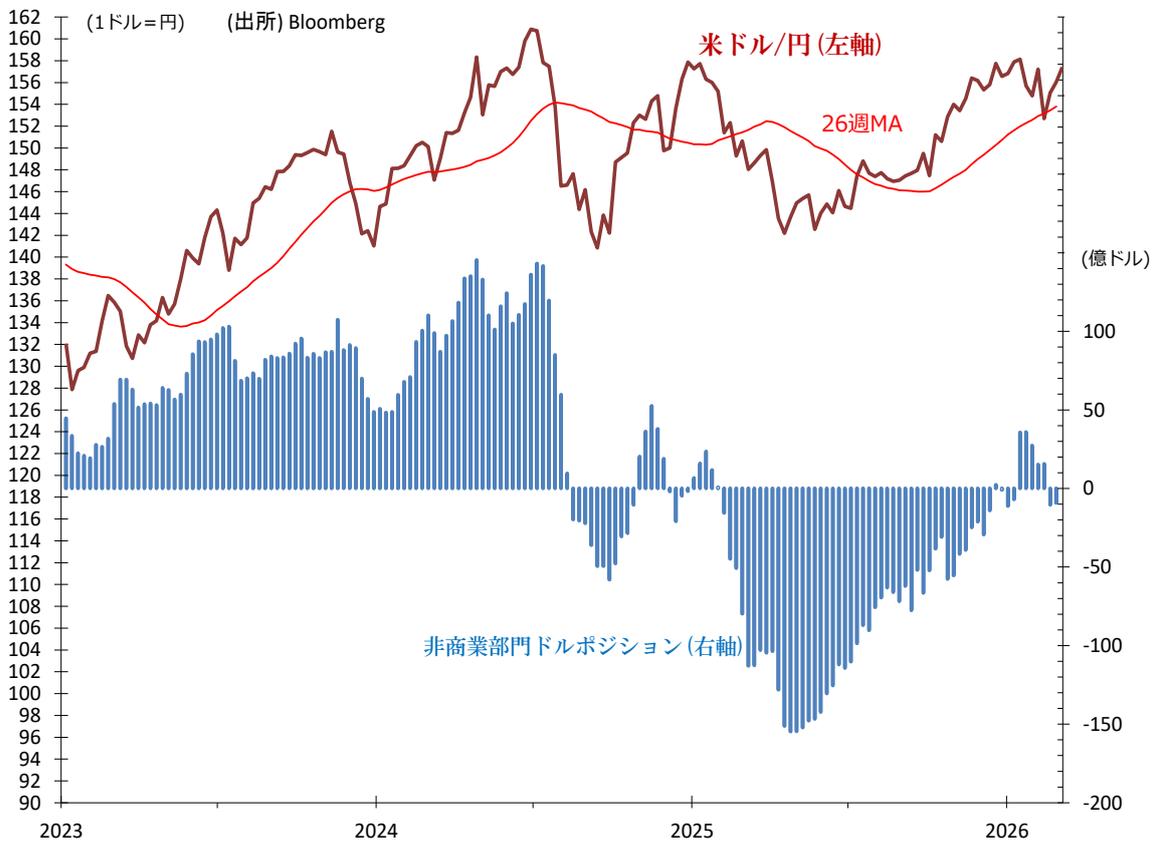
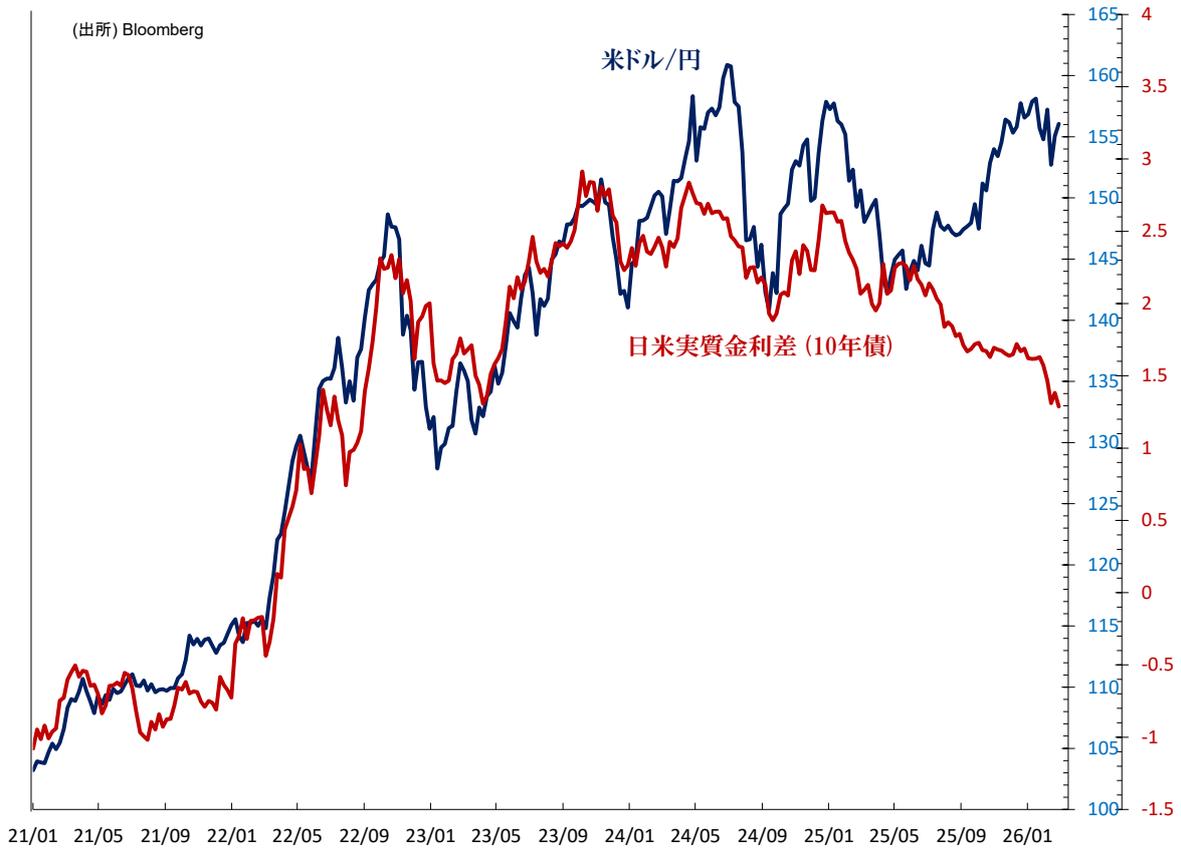
この見方が正しければ、次は第 iii 波によるドル安・円高となります。この第 iii 波によりドル/円は、今後数カ月内にフィボナッチ比率のレンジ[149.640 円-147.337 円]を打診するでしょう。

金利差からのドル/円推計値

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[138.567 円]です。

投機筋は 2 週連続で円買い持ち (2026 年 2 月 24 日時点)

IMM 通貨先物市場における投機筋(非商業部門)は 2 週連続で円買い持ちとなりました。金額的には前週の 10.4 億ドルから 9.2 億ドルに減少しました。



ドルインデックス (ドル指数)

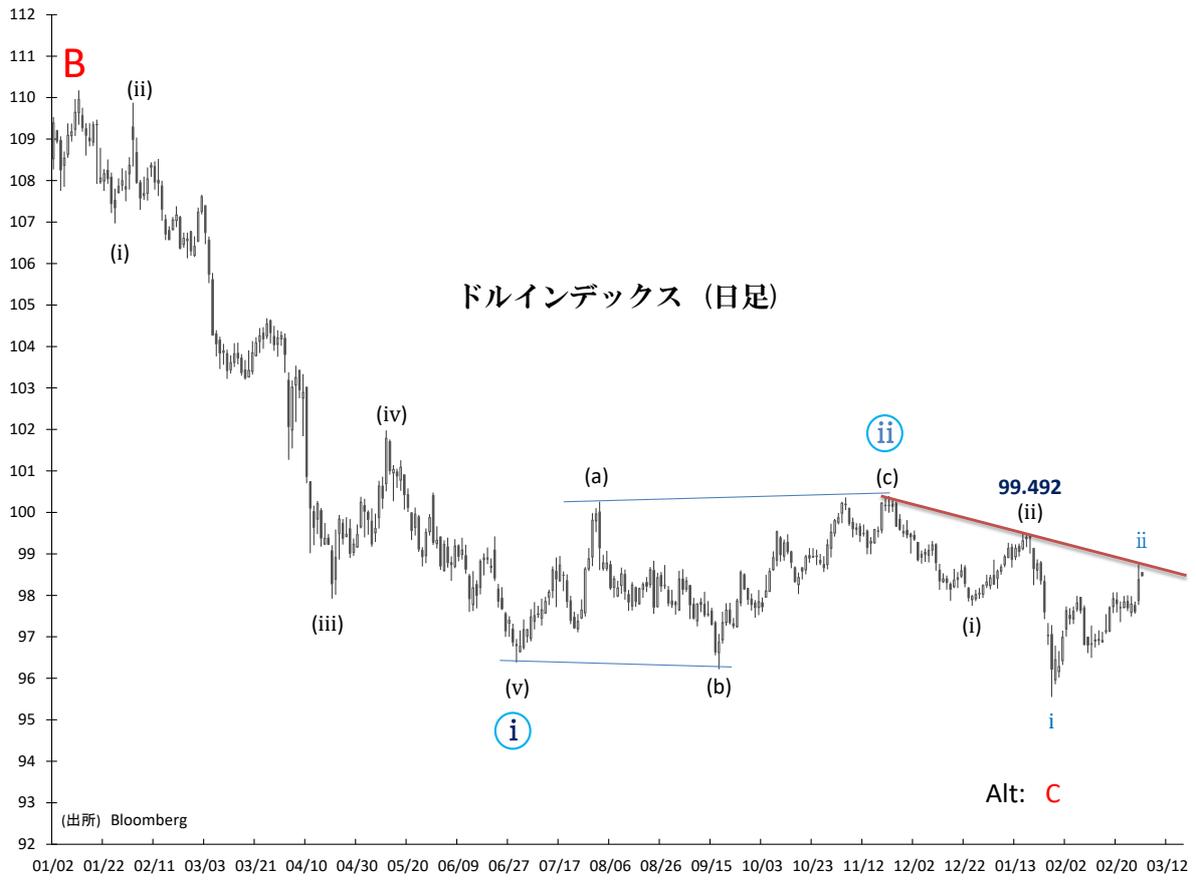


【エリオット波動分析】

25年1月からのドル安(C波)が展開中とみています。先々C波のスケールは、22年9月～23年7月のドル安A波を凌駕し、A波の1.618倍～2.618倍に拡大する可能性があります。

95.551(1/27安値)からの第ii波リバウンドは50週MAまで水準を切り上げました。第ii波は短期的にも終了する可能性があり、近いうちに第iii波によるドル安「サード・オブ・サード」が始まるでしょう。この見方に立てば、ドルの急落が接近していることとなります。

その反面、今後も反発基調が継続し、一時的にも99.492(1/15)を上回ると、現行のドル安シナリオは撤回されます。この場合、別のシナリオ(中長期のドル高)を検討する必要があります。



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

## 当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

---

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会  
株式会社マネースクエア

---